

令和元年度 全国視聴覚教育連盟 研究プロジェクト
**「視聴覚教材・機器の保存と活用」に関する研究
報告書**

令和2年6月

全国視聴覚教育連盟
「地域メディアセンター構想研究部会」

目 次

I 研究の目的	… 3
II 研究の方法	… 4
III 研究の結果と報告	… 6
1 調査研究の結果	
2 事例研究の報告	
<事例1>岩手県 中央地域視聴覚ライブラリーの事例	… 16
<事例2>埼玉県 春日部市視聴覚センターの事例	… 19
IV 研究のまとめ	… 22

◇全国視聴覚教育連盟「地域メディアセンター構想研究部会」メンバー
(所属は令和元年度)

丸山 裕輔（新潟県阿賀町立上川小学校 校長：全視連研究部会主査）

富手 冬樹（岩手県教育委員会事務局 盛岡教育事務所 主任社会教育主事）

樋口 誠（埼玉県春日部市教育委員会 視聴覚センター 生涯学習推進担当主査・指導主事）

高見 晴彦（兵庫県丹波篠山市視聴覚ライブラリー 係長）

高橋 敏幸（茨城県阿見町立朝日中学校 講師）

村上 長彦（全視連専門委員会委員長）

I 研究の目的

全国視聴覚教育連盟の専門委員からなる「地域メディアセンター構想研究部会」では、地域における学びに役立つメディアサービスを充実させていくために、視聴覚センター・ライブラリーの機能をどう維持し発展させていくか等の促進策をこれまで検討してきた。そこでは、「メディアを学び・創り・送り・使う」の視点から、地域メディアセンターとしての在り方を探究してきた。

視聴覚センター・ライブラリーは、従来から、16ミリフィルムやビデオテープといった視聴覚教材を保有し、提供してきた。映画やビデオといったメディアを使うことによって、学校教育や社会教育において豊かな学びを醸成してきた経緯がある。メディアによる学習を児童生徒や地域住民が共有することによって、新たな学びを創造することにもつながる。

また、視聴覚センター・ライブラリーは、地域固有の歴史・文化に関する16ミリフィルムを収集・保存したり、地域の伝統行事・芸能をビデオカメラで撮影したり地域教材の自作や制作支援をしたりする取組も、これまで行ってきた。これらの取組は、メディアを創り未来へ送るといった重要な文化の継承とも言えるだろう。

しかしながら、メディアの多様化が進展する現在では、16ミリフィルムやビデオテープといったアナログメディアの視聴覚教材の利活用には、問題もある。たとえば、伝統的な視聴覚教材や、それらを映写する視聴覚機器の保存や保守・管理といった問題があげられるだろう。

それらの問題解決の一助となるように、今年度の地域メディアセンター構想研究部会の研究プロジェクトがスタートした。本研究の目的は、これまで収集してきた視聴覚教材の保存と活用の状況と、保守が困難になっている機器のメンテナンスに関して、全国の視聴覚センター・ライブラリーの状況を調査し、現状を明らかにするとともに、活用方法を提言することである。

<執筆：全国視聴覚教育連盟専門委員会「地域メディアセンター構想研究部会」>

Ⅱ 研究の方法

1. 研究方法の概要

本研究の目的にアプローチするために、次のような方法で研究を実施した。大きく2つの方法である。1つが、国内の視聴覚センター・ライブラリーへのアンケートによる調査研究である。もう1つが、全国視聴覚教育連盟専門委員会の部会のメンバーが所属する視聴覚センター・ライブラリーによる事例研究である。次に、それぞれの方法について述べる。

2. 調査研究の方法

(1) 調査内容

視聴覚センター・ライブラリーに現存する16ミリ映写機の状態やメンテナンス状況を明らかにする。16ミリフィルムやビデオテープの管理などの状況について調査して、課題を整理し、今後の展開を提言する。

(2) 調査項目

次の9つの問いからなる調査項目である。以下に調査項目の内容を紹介する。

【問1】16ミリ映写機の台数

- ①上映可能な映写機の台数
- ②上映不可だが部品の活用等で保管している映写機の台数
- ③特に予定はないが上映不可のまま保管している映写機の台数

【問2】ビデオデッキの台数

- ①上映可能なビデオデッキの台数
- ②上映不可だが部品の活用等で保管しているビデオデッキの台数
- ③特に予定はないが上映不可のまま保管しているビデオデッキの台数

【問3】16ミリ映写機のメンテナンスができる職員

*メンテナンスには、ランプ等の交換が可能なことも該当します。

- ①メンテナンスができる職員が 1いる 2いない

【問4】16ミリ映写機の修理対応

*修理には、部品の交換等の簡単な修理も該当します。

- ①修理依頼できる業者が 1ある 2ない

【問5】16ミリフィルムの保管状況

- ①保管場所に空調設備が 1ある 2ない
- ②保存状態の確認をしているか 1定期的に行っている 2特にしていない
- ③劣化や酢酸臭を発生しているフィルムの有無 1ある 2ない

【問6】ビデオテープの保管状況

- ①保管場所に空調設備が 1 ある 2 ない
- ②保存状態の確認をしているか 1 定期的に行っている 2 特に行っていない
- ③劣化やカビ等が付着しているビデオテープの有無 1 ある 2 ない

【問7】16ミリ映写機の今後についてどのようにお考えでしょうか

- 1 需要も減ってきているので、いずれ終了する
- 2 貴重なフィルムもあるので、できるだけ長く使えるようにすべき
- 3 その他（具体的に)

【問8】16ミリ映写機を使用し続けるために全視連に期待すること

- 1 メンテナンスや延命策の情報提供
- 2 補修に必要な部品等のあっせん
- 3 特になし
- 4 その他（具体的に)

【問9】映写機やフィルム、ビデオテープの保管・活用に関する今後の課題

<自由記述>

(3) 調査方法

- ①全国公立視聴覚センター連絡協議会加盟のセンターにアンケート調査を行う。
- ②調査票を電子メールで送信し、返信で回答していただく。
- ③北は北海道から南は九州まで、全国から12の視聴覚センター・ライブラリーに、アンケート調査の回答をいただいた。

3. 事例研究の方法

(1) 調査内容

部会メンバーの所属する視聴覚センター・ライブラリーの状況を事例報告してもらい、具体的な状況を踏まえた調査とする。その際、前述の調査項目、並びに、可能であれば「職員支援研修」に関しても記述していただく。

(2) 調査対象

次の2つの視聴覚センター・ライブラリーを、令和元年度の事例の調査対象として取り上げることとなった。

- ① 岩手県 中央視聴覚ライブラリー
- ② 埼玉県 春日部市視聴覚センター

<執筆：全国視聴覚教育連盟専門委員会「地域メディアセンター構想研究部会」>

Ⅲ 研究の結果と報告

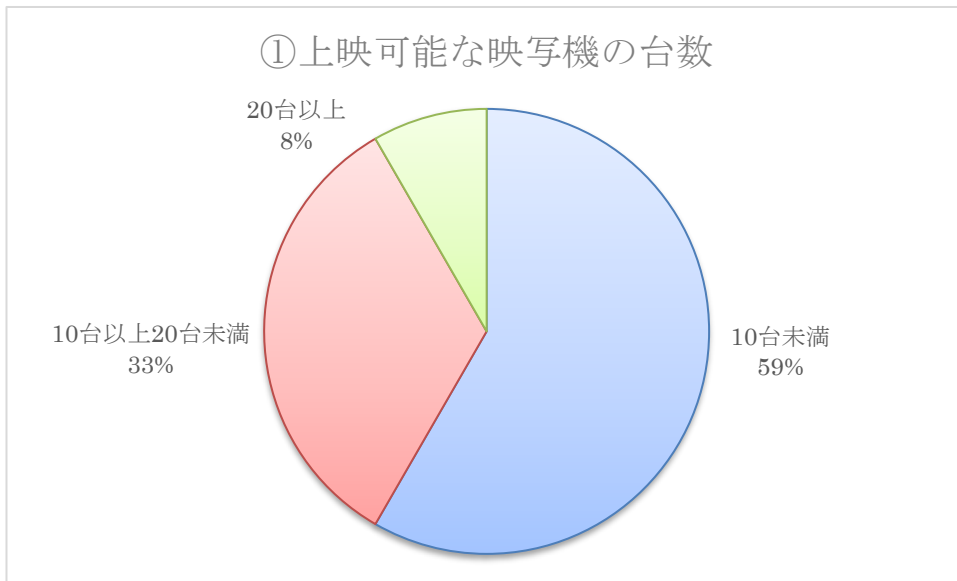
1. 調査研究の報告

アンケート調査の各項目の結果について、順に述べていく。

【問1】16ミリ映写機の台数

① 上映可能な映写機の台数

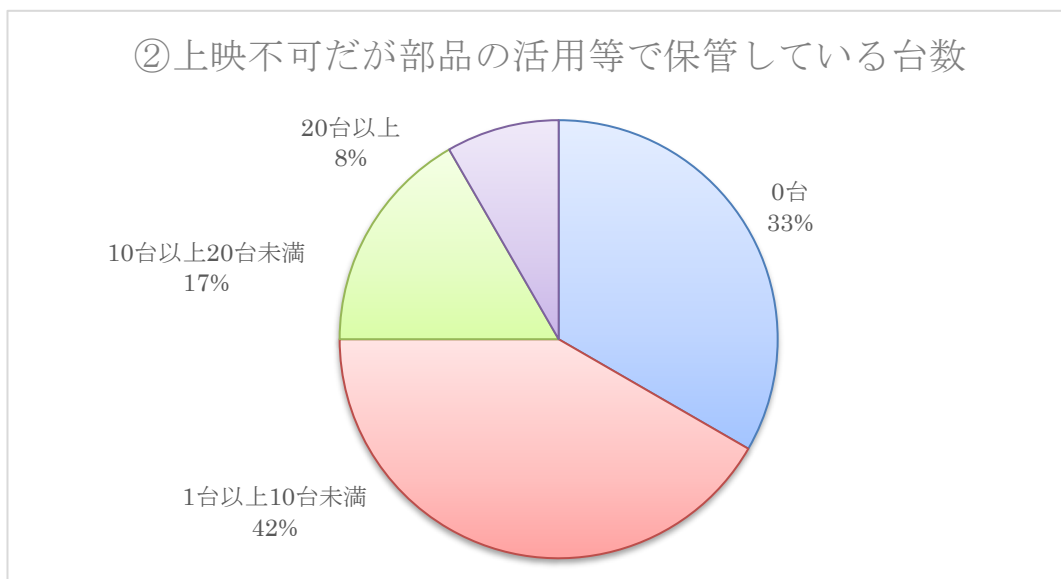
次の図は、「上映可能な映写機の台数」の結果を表したものである。約6割の視聴覚センター・ライブラリーでは、映写機の台数が1桁となっている。26台の映写機を保有しているセンターもあるが、映写機の台数の平均は、9台という結果であった。



② 上映不可だが部品の活用等で保管している映写機の台数

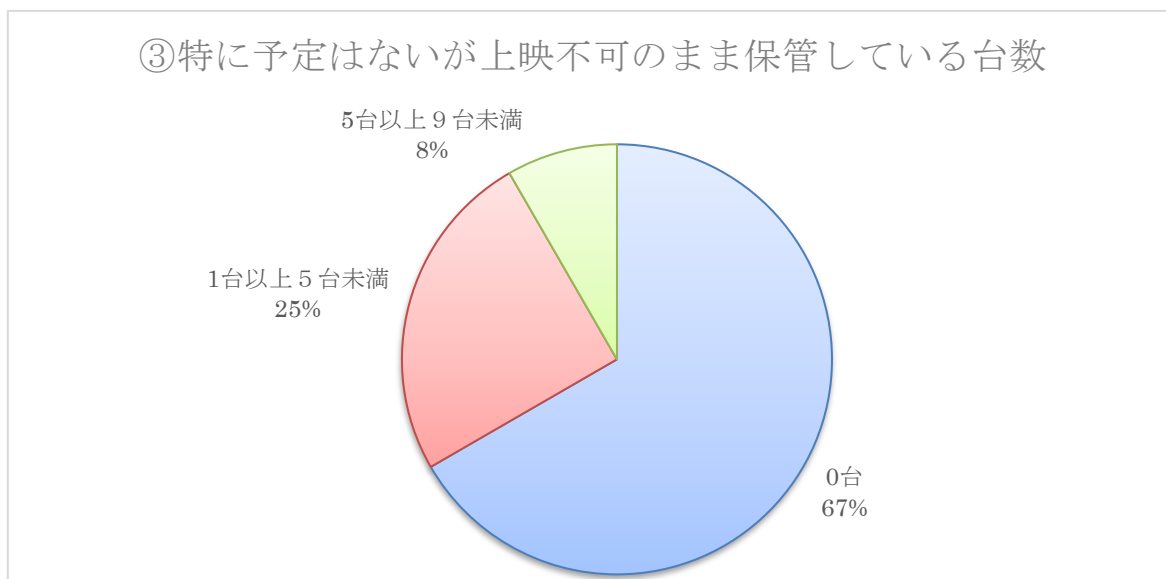
次の図は、「上映は不可であるが部品の活用等で保管している映写機の台数」の結果を表したものである。約3割の視聴覚センター・ライブラリーが、そのような映写機を保有していない。また、保有しているも、約4割が1桁台の台数である。

半面、22台保有しているセンターが1つある。保有台数の平均は、約5台である。



③特に予定はないが上映不可のまま保管している映写機の台数

次の図は、「特に予定はないが上映不可のまま保管している映写機の台数」の結果を表したものである。約7割近くの視聴覚センター・ライブラリーが、前述のような映写機は保有していない。平均台数は、1.3台である。最大数は9台であり、該当するセンターは1つである。

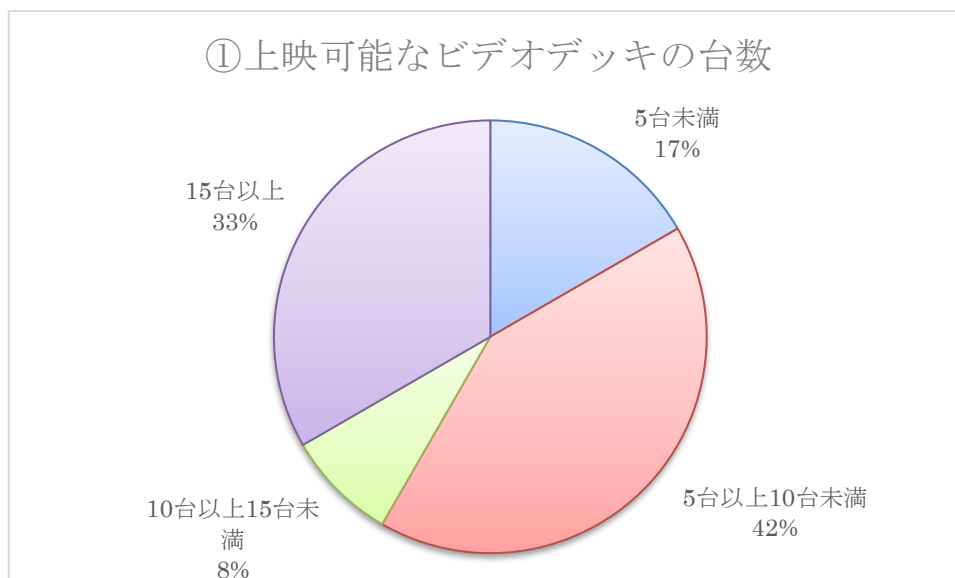


【問2】ビデオデッキの台数

①上映可能なビデオデッキの台数

次の図は、「上映可能なビデオデッキの台数」の結果を表したものである。約6割の視聴覚センター・ライブラリーは、1桁台の保有数である。中には、15台保有しているセンターが3ヶ所、17台保有しているセンターが1ヶ所あった。

ビデオデッキの平均の保有台数は、9.5台であった。

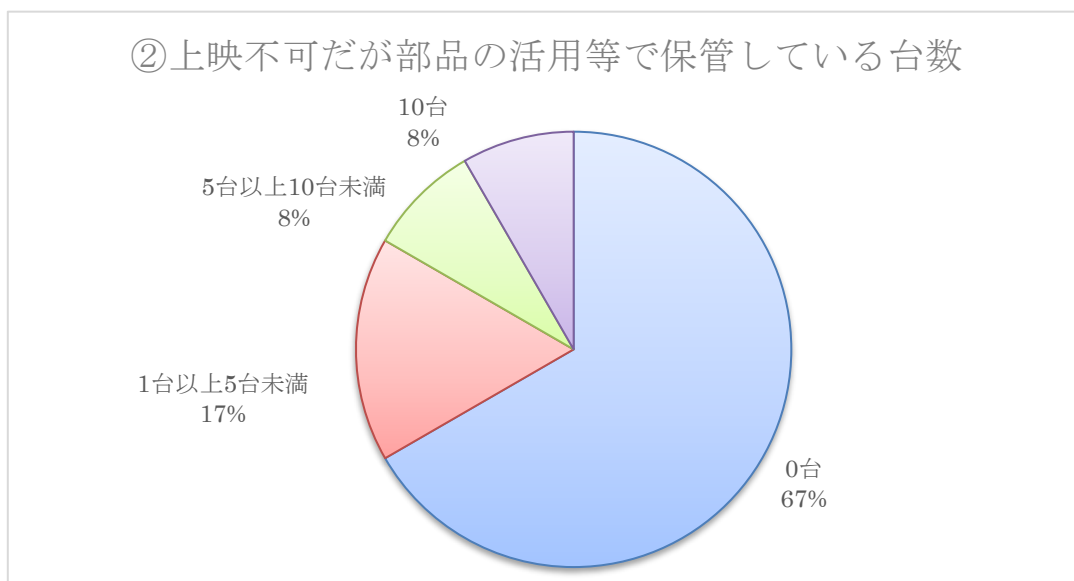


② 上映不可だが部品の活用等で保管しているビデオデッキの台数

次の図は、「上映不可であるが部品の活用等で保管しているビデオデッキの台数」を表したものである。約7割近くの視聴覚センター・ライブラリーは、そのようなビデオデッキを保有していない。9台保管と10台保管しているセンターが、それぞれ1ヶ所ずつ

ある。

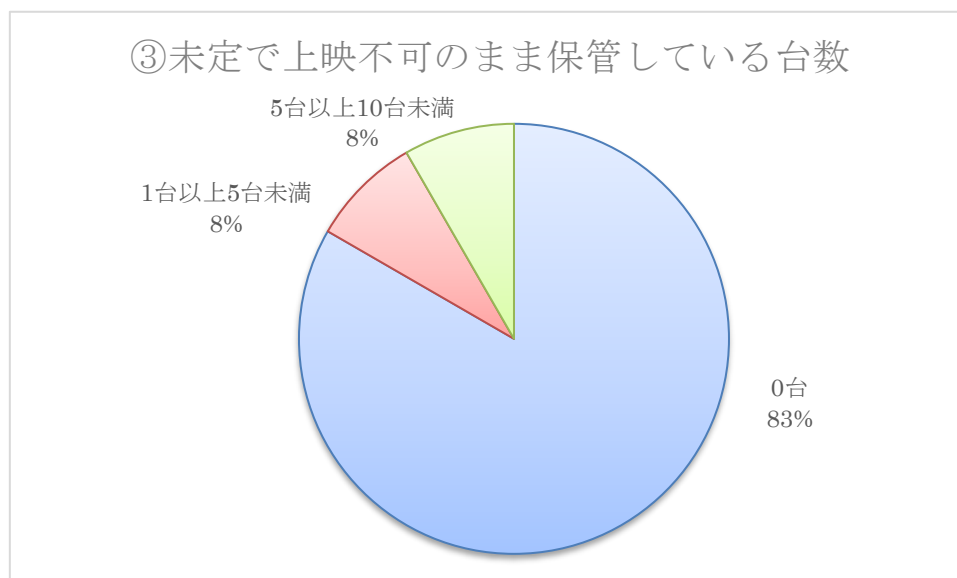
上映は不可であるが、部品の活用等で保管しているビデオデッキの平均の保有台数は、1.9台であった。



③特に予定はないが上映不可のまま保管しているビデオデッキの台数

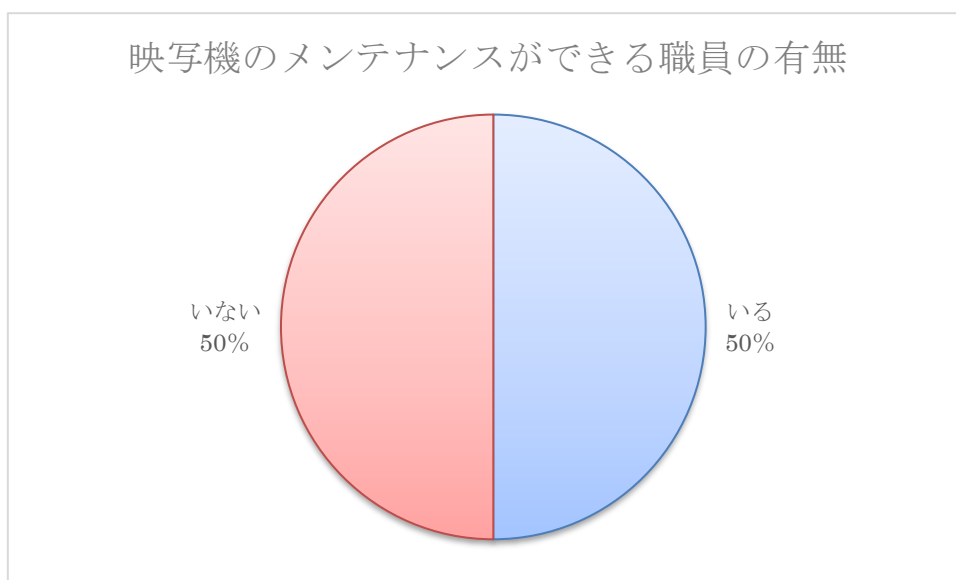
次の図は、「特に予定はないが上映不可のまま保管しているビデオデッキの台数」の結果を表したものである。約8割以上の視聴覚センター・ライブラリーが、そのようなビデオデッキを保有していない。1台保管と9台保管のセンター・ライブラリーがそれぞれ1ヶ所ずつある。

特に予定はないが上映不可のまま保管しているビデオデッキの平均の保有台数は、0.8台であった。



【問3】16ミリ映写機のメンテナンスができる職員

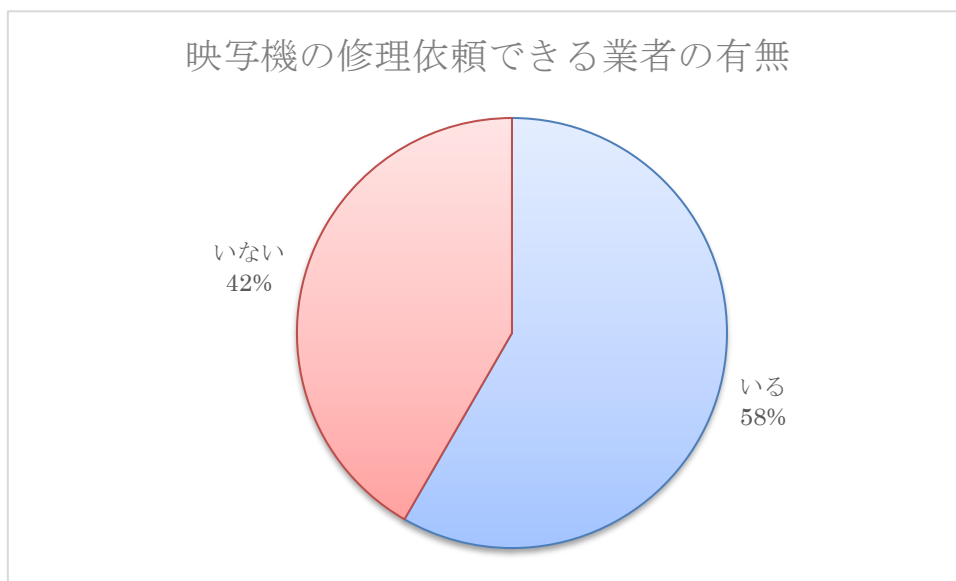
ランプ等の交換が可能であることも含めて、「16ミリ映写機のメンテナンスができる職員」の回答結果をまとめたものが、次の図である。調査対象である12の視聴覚センター・ライブラリーの内、メンテナンスができる職員については、ちょうど半数ずつが「いる」「いない」の状況であった。



【問4】16ミリ映写機の修理対応：修理依頼できる業者の有無

部品の交換等の簡単な修理も含めて、「16ミリ映写機の修理依頼できる業者の有無」について尋ねた回答の結果が、次の図である。ここでは、調査対象の半数を超える7つの視聴覚センター・ライブラリーが「いる」と回答している。

その反面、5つの視聴覚センター・ライブラリーが、修理依頼できる業者が「いない」状況である。



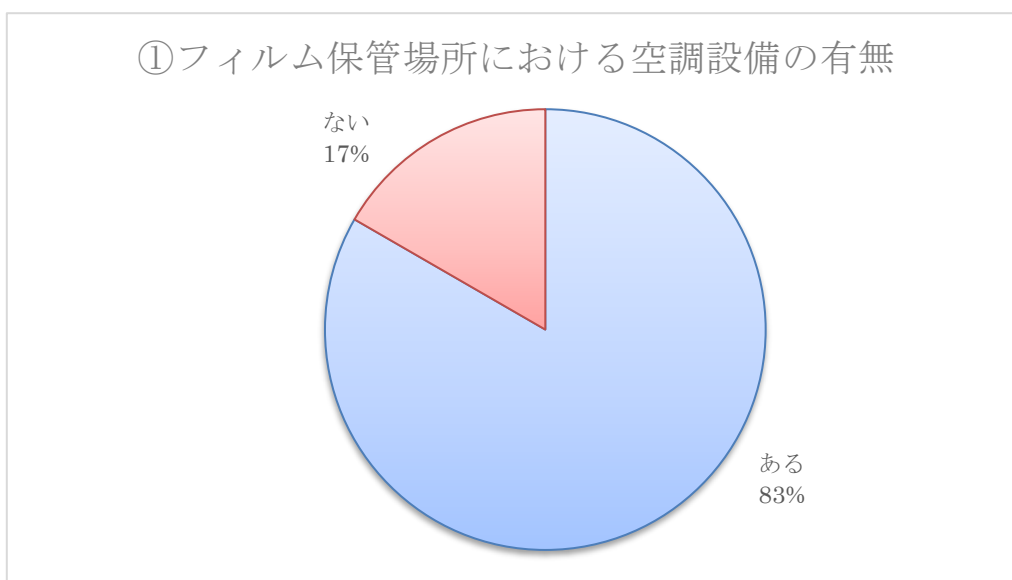
【問5】16ミリフィルムの保管状況

①保管場所における空調設備の有無

16ミリフィルムの「保管場所における空調設備の有無」について、回答結果をまとめたものが、次の図である。視聴覚センター・ライブラリーの8割以上が、保管場所に空調設備が「ある」と回答している。

しかしながら、2割近くの視聴覚センター・ライブラリーでは、16ミリフィルムの保管場所に空調設備が「ない」状況である。

①フィルム保管場所における空調設備の有無

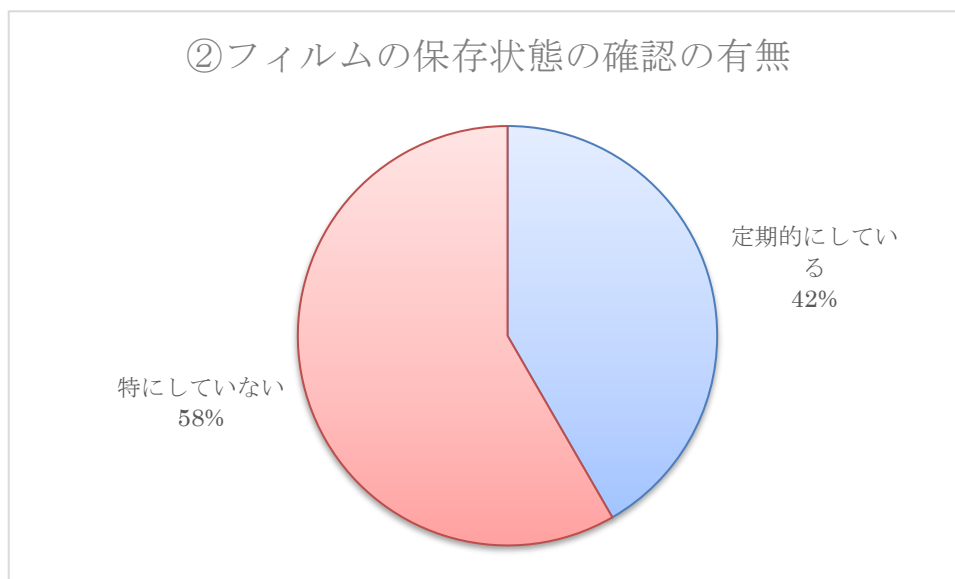


②保存状態の確認の有無

16ミリフィルムの「保存状態の確認の有無」についての回答をまとめたのが、次の図である。16ミリフィルムの保存状態の確認を「定期的に行っている」と回答した視聴覚センター・ライブラリーは42%である。

その反面、「特にしていない」と回答した視聴覚センター・ライブラリーは、58%と半数を超えている。視聴覚センター・ライブラリーにおける16ミリフィルムの保有本数や職員数といった要因も、この状況に関連しているかもしれない。

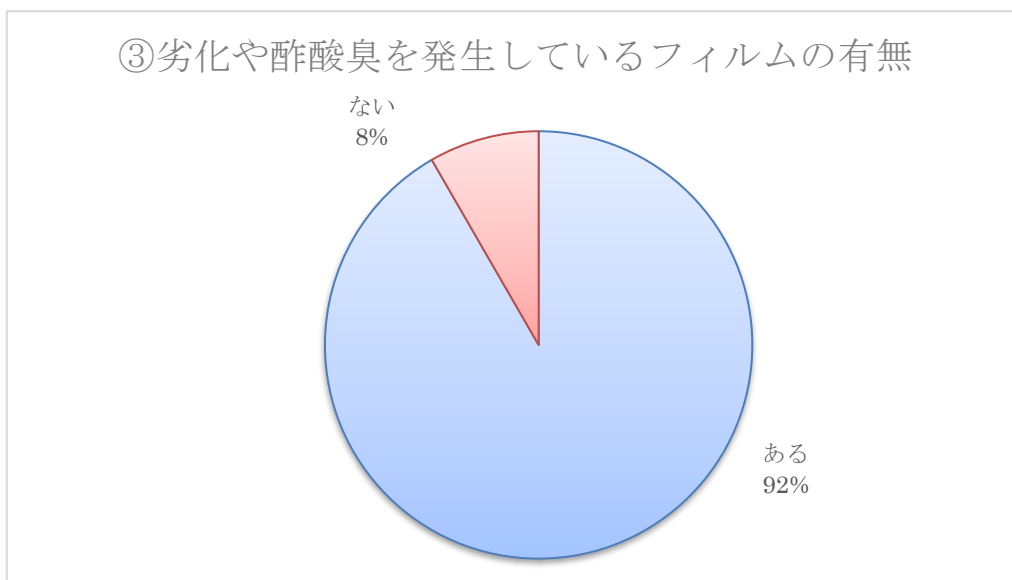
②フィルムの保存状態の確認の有無



③劣化や酢酸臭を発生しているフィルムの有無

保有している中で「劣化や酢酸臭を発生しているフィルムの有無」についての回答をまとめたのが、次の図である。「ある」という回答が92%である。ほとんどの視聴覚センター・ライブラリーが、劣化や酢酸臭を発生しているフィルムを何らかの形で保有している。

視聴覚センター・ライブラリーの施設設備の状況やフィルムを取り巻く環境構成が影響を与えている可能性も考えられる。しかしながら、劣化の問題は、貴重な財産ともいえる16ミリフィルムを保管していく上で、考慮しなければならない課題ともいえる。16ミリフィルムの保存状態の確認の方法と併せて相互に検討していく必要がある。

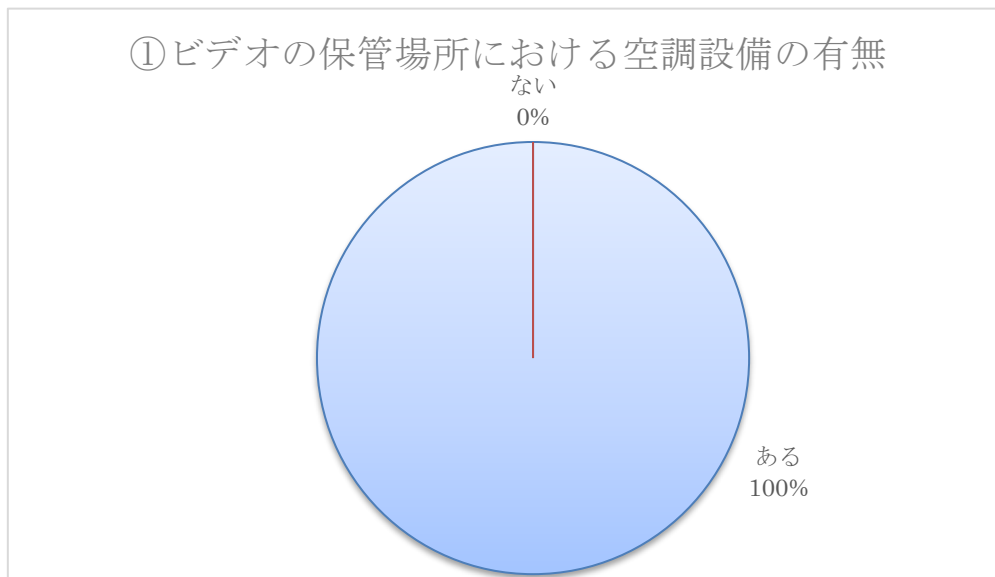


【問6】ビデオテープの保管状況

①保管場所における空調設備の有無

この項目は、16ミリフィルムの保管場所と同様に、ビデオテープの「保管場所における空調設備の有無」についての問いである。

その回答をまとめたものが、次の図である。「ある」の回答が100%である。すべての視聴覚センター・ライブラリーに、ビデオテープの保管場所に空調設備があるという結果であった。ビデオテープは、コンパクトであるという点もあるが、サイズの大きな16ミリフィルムの場合とは異なる結果となった。

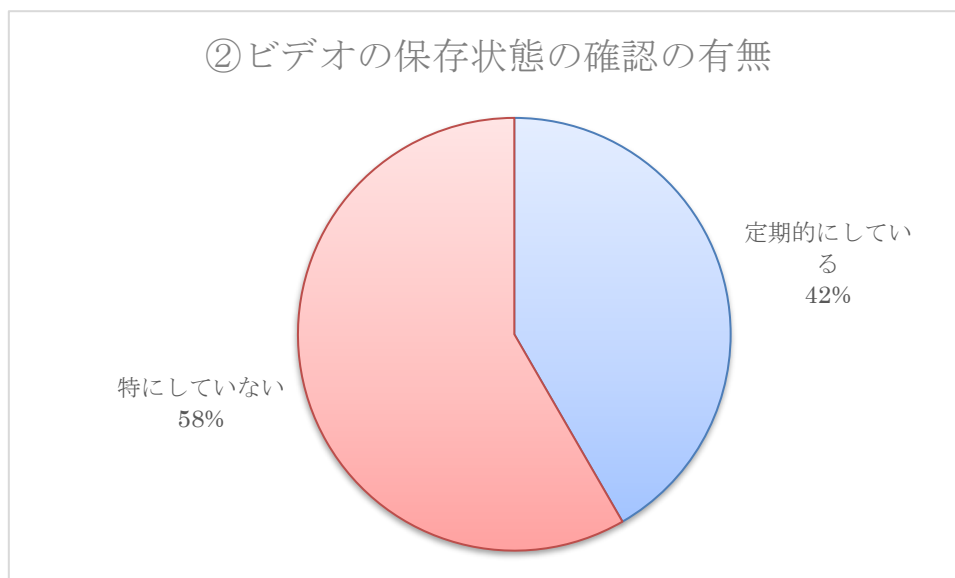


②保存状態の確認の有無

ビデオテープの「保存状態の確認の有無」についての回答をまとめたのが、次の図である。ビデオテープの保存状態の確認を「定期的に行っている」と回答している視聴覚センター・ライブラリーが42%である。逆に、「特にしていない」と回答している視聴覚センター・ライブラリーが58%で、それよりも多い結果となっている。

これは、16ミリフィルムの保存状態の確認の有無と同様の結果となった。ビデオテープの貸出後、返却の際に点検をしやすいことにも起因しているかもしれない。

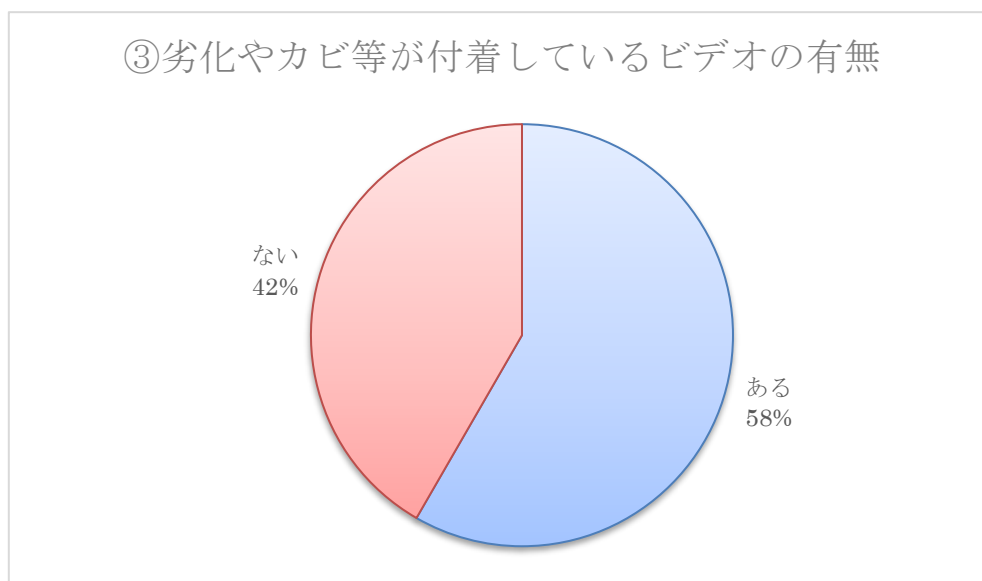
②ビデオの保存状態の確認の有無



③劣化やカビ等が付着しているビデオテープの有無

保存状態に関連して、「劣化やカビ等が付着しているビデオテープの有無」について尋ねた結果をまとめたのが、次の図である。劣化やカビ等が付着しているビデオテープが「ある」と回答した視聴覚センター・ライブラリーが58%と、「ない」と回答した42%を上回る結果となった。16ミリフィルムと同様に、ビデオテープも劣化等に問題があり、その対策を考慮していく必要がある。

③劣化やカビ等が付着しているビデオの有無



【問7】16ミリ映写機の今後についての考え

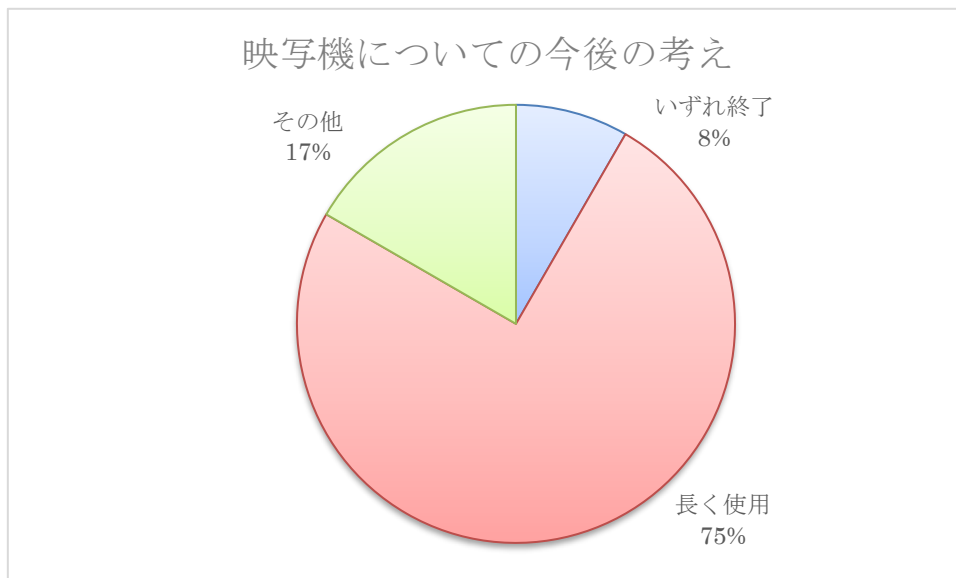
この調査項目は、映写機に関する問いである。「16ミリ映写機の今後についてどのようにお考えでしょうか」と尋ねている。回答は、次の3つから選択する形式である。

「1. 需要も減ってきているので、いずれ終了する」「2. 貴重なフィルムもあるので、できるだけ長く使えるようにすべき」「3. その他（具体的に記述）」以上の選択肢である。

その回答結果をまとめたものが、次の図である。視聴覚センター・ライブラリーの考えの内訳（%）としては、「1. 需要も減ってきているので、いずれ終了する」が8%、「2. 貴重なフィルムもあるので、長く使えるようにすべき」が75%、「3. その他」が17%という結果であった。また、「3. その他」については、具体的には「市からの委託事業のため、

今後については不明である」「いずれ終了となるのは仕方ないが、劣化が進まないうちに16ミリフィルムからDVDへのコピーを行う」という記述であった。

多くの視聴覚センター・ライブラリーが、16ミリ映写機については、今後も「長く使えるようにすべき」と考えている傾向にある。



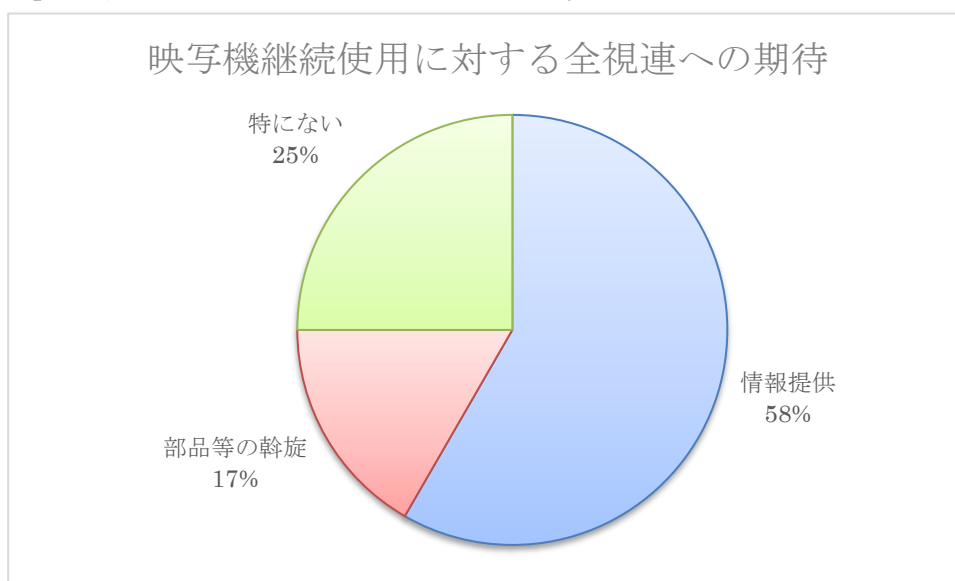
【問8】16ミリ映写機の継続使用に対する全視連への期待

この調査項目は、「16ミリ映写機を使用し続けるために全視連に期待すること」の問いである。次の4つの選択肢から回答する形式である。

「1. メンテナンスや延命策の情報提供」「2. 補修に必要な部品等のあっせん」「3. 特にない」「4. その他（具体的に記述）」以上の選択肢である。

回答結果を表したものが、次の図である。過半数を超える視聴覚ライブラリー・センターが「メンテナンスや延命策の情報提供」を全視連に期待している。また、「補修に必要な部品等の斡旋」を期待している視聴覚センター・ライブラリーもある。

情報提供の内容としては、映写機の他に、「16ミリフィルムの取り扱いや保存方法、著作権関連」を期待しているセンターもみられた。



【問9】映写機やフィルム、ビデオテープの保管・活用に関する今後の課題

この調査項目は、「映写機やフィルム、ビデオテープの保管・活用に関する今後の課題」について、自由記述で回答していただいた。各視聴覚センター・ライブラリーからの個別の回答を、分類・整理してまとめてみた。以下に、記述する。

(1) 映写機やフィルム、ビデオテープの保管について

① 施設・設備について

- ・劣化防止のための方策
- ・空調の整った部屋での保管が必要であるが、現状では困難である。
- ・16ミリフィルムの保管については、空調設備があるといっても、職員の事務室として使用している部屋なので、通常のフィルムのための空調とは状況が異なっている。また、半数以上のフィルムは、地下の収蔵室で保管しており、ここは空調は十分に整っている場所ではない。したがって、保管すべき十分な場所を確保できていないのが現状である。(VHSについても、同じ状況である。)
- ・大量に保管してあるフィルムのメンテナンスをどうしていけばよいのか。なかには、戦後GHQが日本に貸与したCIE教育映画まで残されている。
- ・ビデオテープの保管・活用については専用のラックにて保管しているが、保存状況の確認に十分な時間がとれないのが現状である。現在のところ、ビデオデッキも多数保有しているが、故障時の対応が課題である。

② メンテナンスやそれに伴う業者について

- ・ピント調節部分のゴム等、メンテナンス業者でも在庫を保有していないものが出てきており、消耗品すらなくなってきていて心配である。
- ・映写機やフィルムのメンテナンスをしていた業者が廃業となったため、新たな業者をみつけなければならない。
- ・映写機やフィルムをメンテナンスする専門的な技能を持っている方が高齢となり、退職している。本施設では何とか無理を言って委託業務を依頼しているが、それにも限界がある。メンテナンスをどのようにしているかを教えてもらいたい。
- ・メンテナンスができる業者の方の高齢化が心配である。当施設では単年度契約でメンテナンスをお願いしているが、いつ断られるか不安である。業者に関する情報提供をお願いしたい。
- ・16ミリ映写機やビデオデッキは、すでに補修を依頼できる業者が近くにいないのが現状です。機器に不具合が生じた場合、貸出を行っている担当で簡単な部品交換(部品活用で保管している機器を利用して・・・)は何とか行っているが、実際再度活用できるまでの修理は十分にはできていない。将来、機器がすべて使用不可になった場合、フィルムやVHSの処置・対応を考える必要があると思われる。

(2) 映写機やフィルム、ビデオテープの活用について

① フィルム、ビデオテープのデジタル化・アーカイブ化について

- ・フィルム、ビデオテープのデジタル化に係る著作権及び予算確保
- ・16ミリフィルムは貴重なものが多い。デジタル化すべきだと思うがその方法がわからず、予算もない。
- ・16ミリフィルム、VHS等のデジタル化支援及びそれに伴う著作権関係の処理支援をしていただく機関があるとよい。
- ・ビデオテープについて：まだ劣化の兆しは見えないものの、やはり貸出の需要が少ない。今後は公記録や地域自作教材等の貴重な資料をDVD等のデジタル媒体にダビン

グし、保存していくこととなる。

- ・フィルム、ビデオテープともに、貸出等の需要があるものについては今後も活用しつつ、今後は本県における貴重な資料を保存するアーカイブ（公記録保管所）としての役割が大きくなると思われるため、保存環境の整備が課題かと思う。

② 職員や講師について

- ・16ミリフィルムについて：ライブラリー事業自体の縮小により、フィルムや映写機に関する専門職員もおらず、需要が減っていることから、貸出制度自体が動いていない状態である。また、受入れ当時の資料が残っておらず、著作権について確認できないことから、貸出できないものが殆どである。
- ・16ミリ映写機の講師がいない。講師が高齢となっており、今後の研修が難しい。

③ 現況からの今後の活用について

- ・16ミリ 映写機及びフィルムについては、市内に愛好する団体があり、公民館等で映画会を計画的に開催している。参加者も多く、今後も続けたいとの要望もある。可能な限り、映写機及びフィルムを良好な状態に維持して、映画会開催の要望に応えていきたい。
- ・16ミリフィルムやVHSの利用に関しては、利用数は横ばい状態から減少傾向がみられる。対して、DVDは、年代を問わず各団体の利用に増加傾向がみられる。予算が限られる中であるが、DVDへの教材へ切替が求められていると感じている。
- ・16ミリフィルムなどには、過去の貴重な記録が残されているもの（すでに絶えてしまった地域の行事や当時の社会や人々の日常の記録など）がある。それらの扱いをどのようにしていくかも今後の課題だと感じている。

以上のような自由記述からも、視聴覚センター・ライブラリーでは、映写機やビデオデッキといったハード、フィルム・ビデオテープといったソフトの両面に問題を抱えていることが分かる。

ハード面である映写機については、修理に対応できる業者や機器の部品といったメンテナンスに関わる問題が提示されている。これは、ビデオデッキについても波及する問題である。また、また、16ミリ映写機の操作に携わる人材確保の問題もある。

ソフト面では、16ミリフィルムやビデオテープの劣化といった問題がある。それらの保管や状態確認等の対策を考慮していく必要がある。メディア変換・デジタル化といった方法に付随する著作権などの問題についても検討していくことも重要である。

視聴覚センター・ライブラリーが保有している貴重な映写機や16ミリフィルム・ビデオテープをこれからも有効に活用していくために、その保存や保管・利活用の問題が明らかになってきた。地域メディアセンターとしての在り方を考える上で、それらの問題解決の方途を今後も追究していく。全国視聴覚教育連盟の部会としても、各地の視聴覚センター・ライブラリーと連携を図りながら、情報提供を行っていきたい。

＜執筆：全視連副専門委員長・同部会主査 丸山裕輔（新潟県阿賀町立上川小学校長）＞

2. 事例研究の報告

次に、調査研究をさらに具体化するために、事例研究を行った。2つの視聴覚センター・ライブラリーの現状と取組について、順に報告する。

**<事例1> 岩手県 中央地域視聴覚ライブラリーの事例
「地域視聴覚教材の保存と活用、機器の保守について」**

1 はじめに

「中央地域視聴覚ライブラリー」は、盛岡教育事務所管内8市町の共同出資で設置した協議会が運営するライブラリーである（以下「盛岡中央ライブラリー」と表記する）。

盛岡中央ライブラリーが所蔵する視聴覚教材約1,500本の中で、最も貸出の多いジャンルが16ミリ映画819本である【表1】（続いてDVD教材569本、ビデオ教材2本）。

16ミリフィルムをしっかりと保存整備するとともに、映写機のメンテナンスや講習会を行い、16ミリフィルムの活用を推進することは、当ライブラリー運営上の重要な課題となっている。

本稿では、当ライブラリーにおける16ミリフィルムの保存と活用、映写機の保守について、盛岡中央ライブラリーの現状と課題を明らかにするものである。

【表1】 H30年度 視聴覚教材の保有・利用状況

	16ミリ映画	ビデオ教材	DVD教材	合計
所有本数	1155	88	234	1477
購入本数	5	0	15	20
貸出本数	819	2	569	1390

2 16ミリフィルムの保存と活用、映写機保守の現状と課題

(1) 16ミリフィルム等の保存管理状況について

16ミリフィルムと16ミリ映写機は、盛岡地区合同庁舎8階の視聴覚教育資料室と試写室に保管しており、フィルムの点検及び貸出準備等の作業は、視聴覚資料室で行っている【写真1、2】。

16ミリ映写機は、25台所有のうち、故障が4台あるため、実際に使用できるのは21台となっている。



【写真1】 視聴覚教育資料室



【写真2】 試写室

16ミリフィルム保存管理上、専任職員が日頃感じていることについては、以下のとおりである。

- 資料室は一括管理の冷暖房が入る部屋だが、温度や湿度が季節によってかなり変化するため、フィルムの保管に最適とは言えない環境にある。
- 古いフィルムほど、貸し出しされずに長期間保管される現状にある。貸し出しされにくいものをフィルム点検機にかけるなど、定期的なメンテナンスができればよいが、実際には多くの時間と手間がかかるため、なかなかできていない。

フィルムの保管場所や保管方法については、予算、スペースの都合上改善できる見込みがないのが現状である。

(2) 16ミリフィルムや映写機のメンテナンスについて

16ミリフィルムについては、貸し出しするたびに、フィルムの点検機【写真3】によって確認し、問題があれば職員が修理している。

また、16ミリ映写機については、映像制作会社の代理店となっている映写整備の専門業者に依頼して、1年に3台の点検と4台のオーバーホールを行っている。ただし、専門業者が県内に1人しかいないため、いつまで修理や点検をお願いできるか心配されるところである。

さらに、映写機の部品交換が必要な場合は、以前に購入してあるランプや、使用できない映写機の中古部品を使って修理している。現在、部品の製造は行っていないため、ストック品や中古映写機の部品が無くなれば、修理や交換が難しくなると予想される。



【写真3】点検機

(3) 16ミリフィルムの廃棄について

16ミリフィルムの廃棄については、傷や劣化の状態、購入年度や利用状況、廃棄予算等を職員が確認のうえ、必要に応じて実施している。平成30年度は8本廃棄している。購入年度が古いなど劣化が激しいものは、フィルムが赤く焼けたようになり、酸臭がするため、確認して処分するとともに、県視聴覚教育連絡協議会に報告している。

(4) 16ミリフィルムの利用促進のための研修について

① 16ミリ映写機操作技術講習会について

16ミリ映画教材の利用を推進するため、16ミリ映写機等の使用管理に必要な知識と技術取得を目的に開催している。

年間3回開催しており、平成30年度は22名、令和元年度は25名に修了証を配布することができた。16ミリフィルムや映写機の扱い方を知ってもらう貴重な機会となっており、受講者である公民館等の施設職員に利用を促進している【写真4】。

② 映画会担当者研修会について

各種視聴覚教材を利用した映画会実施のための実践的研修を行い、担当者の資質向上と視聴覚教材の利用促進を図ることを目的に開催している。演習、事例発表、情報交換、試写・説明等、開催年度により内容は異なるが、参加者からの要望が多い「試写」は、毎年行っている。16ミリフィルムの貸し出しの他、要望があれば映写ボランティアも派遣することを伝え、16ミリ映写機の操作に自信がない方でも借りられることを知っていただき、利用を促進している。平成30年度は11名、令和元年度は10名の方に参加いただいた【写真5】。



【写真4】操作技術講習会



【写真5】映画会担当者研修会

3 おわりに

16ミリフィルムや映写機の保守管理の課題をまとめると、次のようになる。

- 16ミリフィルムの保存に適した温度や湿度の保管場所が必要である。
- 保守管理に携わる人材(点検修理業者、職員、ボランティア等)の確保が必要である。
- 16ミリフィルムや映写機の今後の活用の方向性を検討する必要がある。

一方、上記のような課題がありながら今なお継続できているのは、専任職員、映写ボランティア、修理業者による保守管理及び利用促進と、利用者である社会教育施設等の職員の方である。

そして、16ミリ映画を鑑賞した人がまた見たいと思う気持ち、つまりは16ミリ映画特有の魅力が大きく影響してきたと考えられる。

このような16ミリ映画の魅力とそれを支える人々の力を結集し、課題に向き合いながら、利用者のために今後も保守整備を進めていきたいものである。

<執筆者：岩手県教育委員会事務局 盛岡教育事務所 主任社会教育主事 冨手 冬樹>

<事例 2> 埼玉県春日部市視聴覚センターにおける事例
「視聴覚教材、機器の現状、課題について
～主にアナログメディアの利用に焦点をあてて考える～

1 はじめに

春日部市視聴覚センターは、平成2年に春日部市教育センター内に設けられた施設である。設立当初は、視聴覚センターとしての業務を担っていた部署であったが、現在は生涯学習推進担当としての業務も兼ねている。

ソフトの保有状況、利用件数、利用人数は、【表1】に示す通りである。

【表1】(平成30年度)

種類	本数	利用件数	視聴人数
VHSビデオテープ	2, 235	94	2, 101
16ミリフィルム	370	30	3, 691
DVD	180	136	10, 251

機器の保有状況は、【表2】に示す通りである。

【表2】(平成30年度)

種類	利用可	利用不可
VHSデッキ	15	10
16ミリ映写機	7	3
DVDプレーヤー (内BDプレーヤー)	6 (3)	0 (0)

【表1】【表2】に示されたソフトや機器の現状をさらに詳しく確認することで、課題を考えていきたい。

2 ソフトの現状

(1) 利用

①VHSビデオテープ

幼稚園、保育園、小中学校等の教育関係者が教材用に利用することが主である。

その他の市民の利用としては、当センターの視聴コーナーを利用して視聴している市民もいるが、希なケースである。

②16ミリフィルム

映写ボランティアが公民館や高齢者施設と共催する形で、「映画上映会のつどい」と称し、平成30年度は27回の上映を実施している。

また、当センターが図書館と共催で「親子で楽しむ映画会」という企画等で利用している。その他の利用は、ほとんど利用される機会はない。

③DVD

主には学校教育関係者や社会教育関係者が、道徳教育や人権教育の教材用に利用することが多い。一般の市民が利用することは、希である。

また、どの種類のソフトにおいても、特定の利用者の利用が多く、そのため利用件数や利用人数は伸びていない。特定の利用者以外の利用を喚起していくこと

も課題である。

(2) 保管

ほとんどのソフトは、資料保管室にある保管庫に整理整頓された形で保管されている【写真1】。

一部のソフトは、当センターの受付付近にある棚で保管している【写真2】。



【写真1】



【写真2】

いずれの場所も空調管理がされているので、ソフトの大きな劣化にはつながってはいない。16ミリフィルムが劣化した際の酢酸臭もない。しかしながら特定のソフトに偏っての利用が多いため、かなり長期に渡って利用されていないソフトも多くあるため、このままの状況が長期間継続すれば徐々に劣化が進んでいくことになると思われる。

(3) 管理やメンテナンス

毎年、11月に実施されている中学生による職場体験の際に管理簿と照らし合わせながら、確認作業をしている。

ソフトの貸出の前後には、必ず目視して異常がないかを確認している。

①VHSビデオテープ

早送り再生を実施し、映像が映らない等の劣化の具合も確認している。

すべてを確認することはできないが、毎年のローテーションで確認している。

②16ミリフィルム

設立当初はクリーニングやメンテナンスをする職員がいたが、現在は職員数もかなり減少しているため実施していない。貸出の前後にフィルムに異常が確認された場合は、職員がすぐに修繕している。

③DVD

特にメンテナンスは実施していない。

3 機器の現状

(1) 利用

①VHSデッキ

あまり利用される機会はない。

②16ミリ映写機

フィルムと同時の貸出以外に利用はほとんどない。

毎年1回実施している16ミリ映写機簡易技術講習会の際に利用している。

この講習会を終えると3時間の講習で当センターにある16ミリ映写機やフィルムを利用できる。埼玉県で実施されている2日間10時間の講習会で取得できる認定証とは異なるが、16ミリフィルムの利用促進というねらいで実施している。幼稚園や保育園の関係者、地域の子供会の関係者などの参加がある。

③DVDプレーヤー

DVDソフトと同時ではなく、プロジェクターとのセットでの利用が多い。
利用者は多岐に渡り、利用される回数も多い。

(2) 保管

【表2】に示されている利用不可なもの、今後の部品活用としての可能性があるために残しているものである。利用可能なものは、貸出用としてだけでなく、貸出用の部屋に常設されているものもある。

(3) 管理やメンテナンス

貸出の前後で、映像を再生し、異常がないかを確認している。

①VHSデッキ

映像の状態が悪い場合は、クリーニングテープを利用している。

②16ミリ映写機

ランプの交換が必要な場合は、職員で実施している。職員で修理が不可能な状況があった場合は、近隣の修理業者に依頼している。部品がない場合には、費用はかかるが、改めて部品作成にも対応していただいている。

③DVDプレーヤー

読み取りが悪い場合は、クリーニングDVDを利用している。

4 課題

【表1】に示されているVHSテープ、16ミリフィルム、DVDの利用件数や視聴人数からもデジタルメディアであるDVDが、アナログメディアであるVHSテープや16ミリフィルムよりも市民に求められている現実がある。しかしながら、アナログメディアであるVHSテープや16ミリフィルムには、そのメディアでしか表現できない良さがある。その良さをどのように伝えていくか。そして、それらがいつまでも上映できるように機器も含めた管理、メンテナンスをしていくことは大きな課題である。

また、デジタルメディアであるDVDも近年は限られた購入しかできない状況にあり、市民が求める教材や機器が十分に整備されているとは言えない状況を迎えてきていることも大きな課題である。

さらには、全盛期に比べてすべてのメディアに対しての利用件数や視聴人数は減少傾向にあり、市民が利用しやすいように、利用していただけるようにしていくことも大きな課題として捉えている。

5 おわりに

上記に示した課題を解決していくためには、当センターの職員だけではなく、図書館の職員、映写ボランティア、幼稚園や保育園、学校等の関係者、利用頻度の高い市民等の様々な人々に協力していただき、ともに考えていくことができる組織が必要不可欠だと考えている。組織を立ち上げることによって、具体的な工夫や計画がさらに良い形で考えられるようになり、結果として、これまで以上に利用する市民に喜んでもらえるような場所になっていくと考える。

また、著作権等の権利関係の問題がクリアされるのであれば、貴重なアナログメディアであるVHSテープや16ミリフィルムは劣化が進行する前の段階で、デジタルメディアに記録し直す形で保管、管理していくことが後世のために重要になってくると考える。

＜執筆者：埼玉県春日部市教育委員会 視聴覚センター
生涯学習推進担当主査・指導主事 樋口 誠＞

Ⅲ 研究のまとめ

1 映像媒体に関わる課題

視聴覚センター・ライブラリーは、中心的活動として 16 ミリフィルムやビデオテープなどの映像媒体を収集保管し、貸出を行ってきている。

その映像を蓄積し伝えるためには媒体が不可欠であり、媒体の技術的進化で映像の質や伝達方法も進化してきているが、その反面、旧来の媒体の利用が困難になるという課題も抱えている。

ここで改めて述べるまでもなく、視聴覚センター・ライブラリーがこれまで収集保管、貸出を行ってきた 16 ミリ映画に関しては、映写機の生産だけでなくメーカーによる保守も終了しており、新規のフィルム購入も限定されたものとなっている。16 ミリ映画に続いて普及してきたビデオテープによるビデオ映像に関しても、再生機器の生産終了に伴い、ビデオディスクへの移行が進んでいる。

しかしながら、令和元年度版 視聴覚センター・ライブラリー一覧（日本視聴覚教育協会）によれば、全国の 500 以上の視聴覚センター・ライブラリーで 2 万本を越える 16 ミリフィルムが保管され、ビデオ媒体の 52 万本の内訳は分からないが、ビデオテープの保有数はかなりの本数になると思われる。

つまり、視聴覚センター・ライブラリー活動の基盤の大きな部分は、この先何年続けられるか分からない媒体で進められているという課題を抱えている。

2 業務縮小に伴い機材教材の購入が困難になっている

同じく平成元年度版 視聴覚センター・ライブラリー一覧（日本視聴覚教育協会）によれば、機材購入費が予算計上されている施設は 15.8%に過ぎず、教材購入費が予算計上されている施設は 42.7%となっている。半数以上の視聴覚センター・ライブラリーでは、新規に教材を購入することができず、機材を購入できるのは 2 割もないという状況となっている。

世の中で映像のデジタル化、ネット配信が進む中、多くの視聴覚センター・ライブラリーにおいては、これまで蓄積した映像媒体を生かした取組みを進めざるを得ないという状況にある。

3 現状でできること、取り組むべきことを考える

このような状況において、16 ミリ映画やビデオテープといったアナログメディアの保存、保守・管理のあり方を考え、活用するための方策を考えようというのが今回の調査研究である。

視聴覚センター・ライブラリーへの調査は、全国公立視聴覚センター連絡協議会加盟センターに依頼したが、全国平均と比較すると規模や予算面で大きい施設が多いため、調査結果を見る上では、そのことを踏まえてみる必要がある。

平成元年度版 視聴覚センター・ライブラリー一覧（日本視聴覚教育協会）の全体平均の数値と全国公立視聴覚センター連絡協議会加盟センター平均を比較すると、以下のとおりである。

	16 ミリ保有本数	録画教材保有本数	機材購入費あり	教材購入費あり
全国平均	372 本	965 本	15.8%	42.7%
協議会加盟平均	1,644 本	3,773 本	37.5%	68.8%

① 機材の命策に関する情報を提供する

16ミリ映写機で見ると、上映可能な映写機はまだ多く残っているが、部品活用のため、あるいはとりあえず保管している映写機も一定数あることが分かった。メーカーの保守は終わっているが、修理対応が可能な業者もあることから、延命策に関する情報提供を視聴覚センター・ライブラリーの求めに応じて全視連ができる体制を作ることが必要と考える。

ビデオデッキに関しても同様に部品の活用等で残しているデッキもあるようだが、16ミリ映写機と違って、修理できる業者も限られるため、修理しながら使い続けることは難しい。図書館においてもビデオテープの閲覧を中止する動きが出てきているが、延命策に関して情報提供することが求められる。

② フィルムとテープの保管環境の改善

16ミリフィルムの保守において、ビネガーシンドロームといわれる酢酸臭を発生するフィルムの劣化問題は広く知られるところとなっている。しかしながら、調査においても約9割が劣化や酢酸臭の問題があると回答している。8割は保管場所の空調設備を持っており、4割は定期的に保存状態の確認をしている上での数字であるので、さらなる対策をとる必要があると思われる。

ビデオテープの保存状態は16ミリフィルムよりは良い状況のようであるが、磁気の劣化やテープが重なった部分のカビの発生は一見しただけでは発見できないということもあり、保存に関する情報提供が必要となる。

③ 16ミリフィルムとビデオテープの継続的利用に向けて

16ミリフィルムの将来に関しては、長く使用すべきという回答が4分の3を占めており、これまで見てきた課題を解決しながら長く利用できるようにする必要がある。

この取組みに対する全視連への期待では、情報提供が約6割で一番多くなっている。必要ないという回答も4分の1あるが、より規模の小さな視聴覚センター・ライブラリーになると、情報提供の必要性が高まるのではないだろうか。

また、16ミリ映写機の部品等の斡旋も2割近い回答があり、情報提供だけでなく、具体的な相互協力の仕組みづくりも検討する必要がある。

④ 市販教材のデジタル化への取組み

16ミリフィルムにしてもビデオテープにしても、再生機器がなくなったからといって視聴覚センター・ライブラリーがデータをデジタル化して提供することはできない。

しかし、フィルムでしか存在しない貴重な映像が再生機器の寿命に伴って処分されてしまうのは残念なことである。全視連として著作権者との協議によって打開策をつめていくことが必要になるだろう。

4 事例報告から学ぶ

事例として報告があった2つの施設は、全国的に見ても積極的に取組みを進めているところであり、参考としたい点も多々ある。さらに、それぞれの課題も的確に示されており、センター職員だけで改善に取り組むのではなく、利用主体となる所管の職員や市民とも連携して改善に取り組む方向も打ち出されている点は参考にしたところである。

＜執筆：全視連専門委員長 村上長彦＞